

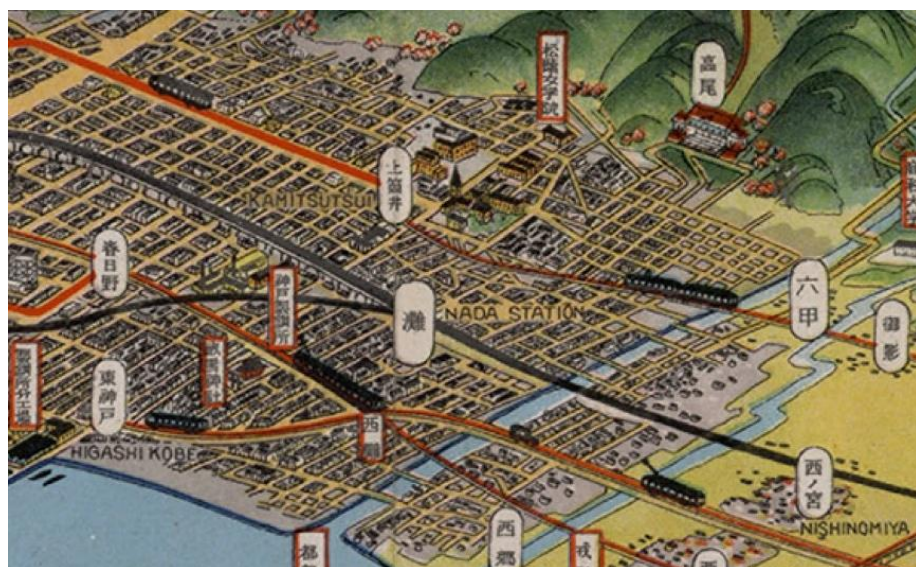
葺合山手、かつての鉄道の拠点-上筒井-

中央区の鉄道の拠点と言えば、誰もが「三宮」を思い浮かべるであろう。JR・阪神・阪急・地下鉄・ポートライナーとあらゆる鉄道が結節している。ところが、明治・大正期に敷設された前三つの鉄道の内、実は阪急だけが設立当初三宮まで路線を敷いていなかったのである。

阪急電車は、1920（大正9）年に大阪と上筒井の間で開業した。開業当時は、王子公園駅のあたりから今の原田線にそって線路が伸び、「上筒井駅」が終点だったのである。そして、大阪方面からの乗客はここから、市電に乗り換え、三宮方面の市街地へ向かったのがあった。いわば、この上筒井駅は阪急と市電との乗換駅として、阪神間の重要なターミナルの地位を占めていたのである。

さて、この上筒井駅がどこにあったのかというと、坂口通2丁目の県福祉センター付近だったという。今では市バスの停留所があるだけで、かつて、ここが神戸の一大ターミナルだったということは想像も出来ないであろう。

その後1936(昭和11)年に王子公園駅（当時は西灘駅）から三宮まで今のルートで阪急が三宮に乗り入れたため、1940(昭和15)年に上筒井駅は廃止されてしまったのである。



吉田初三郎
「神戸：大神戸市を中心とする
名所鳥瞰圖繪」〔1930年〕
(神戸市立中央図書館 蔵)



出典：「神戸歴史トリップ」道谷 卓 著

葺合山手、かつての鉄道の拠点-上筒井-

